

都立青山特別支援学校（港区・渋谷区・目黒区センター校）

特別支援教育センター的機能通信 No.6（通巻 No.81）

つなぐ



令和 6年 10月2日(水)

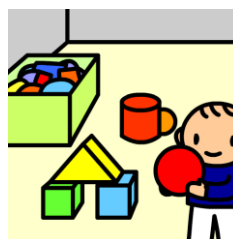
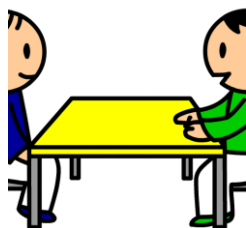
都立青山特別支援学校校長	中澤 将人
相談支援部主任	中村 尚子
文責	黒子 澄子
	田崎 里香

港区学童クラブ巡回相談 報告

本校では毎年、港区からの委託を受けて、学童において気になる児童・生徒の観察とカンファレンスを行っています。今年度も、各学童クラブや放課 GO→クラブからの要請に応じ、夏季休業中を中心に巡回相談を行いました。気になる児童・生徒の様子を一時間ほど観察し、見立てをお話してから、必要な支援について職員の方々と一緒に考えていきます。

今年度は事前に各施設からの状況をお伝えいただき、電話、もしくは訪問による相談を行いました。夏季休業は、利用している児童・生徒数が通常より多い施設もあり、長い一日を活動内容や場所を分けて過ごすなど、工夫されているところが多くありました。たくさんの子供たちがいるなかで、気になる子供の支援を的確に行うには、視覚的な支援や見通しがもてる工夫が必要になります。そして、多くの学童クラブで様々な工夫が見られました。各施設で工夫をされている点について、観察から得た確かな理由をもって後押しをさせていただきながら、よりよい支援や対応策を考えていきます。

港区からの委託として行っている巡回相談は、学童クラブを利用する子供たちの人数に比例して、毎年相談件数が増えています。港区と担当教員において、現在今年度の活動の振り返りと、次年度に向けての話し合いを進めています。次年度以降も、より効果的にニーズに合う巡回相談が行えるよう、センター的機能を果たしていきたいと考えています。



センター的機能発揮事業 巡回相談のポイント

巡回相談では、港区・渋谷区・目黒区の小・中学校からの依頼を受け、気になる子供について、先生方と一緒によりよい支援の工夫や方法を考えていきます。

＜対象児童・生徒のいる教室を観察＞

- ・席は授業に集中できる場所？黒板の見えやすさは？先生の視野に入りやすい？
- ・周りの友達とのかかわりは？
- ・一日のスケジュールや次の活動の準備、場所の指示等が分かりやすく提示されている？
等々

→周囲の小さな変化が気になって注意が続かないことがある一方で、少し配慮を加えることで落ち着いて取り組むことができることも多いです。すべての児童・生徒が安心して、落ち着いて過ごすために、不要な刺激を減らしたり、整理整頓に努めたりすることで、学習環境を整えることは大事なポイントです。

＜授業中の様子を観察＞

- ・着席の姿勢は？
- ・聞くときの目線と集中力は？
- ・板書の書き取りは？
- ・質問への答え方は？
- ・友達との協力作業の役割は？等々



→全ての児童・生徒が自分の力を発揮し、認められ、「わかる」「できる」ことを実感できる授業づくりのためには、全ての児童・生徒にとって教育の基本となる教科教育の充実が必要です。さらに「特性等を踏まえた一斉指導の工夫」「特性等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮」などの特別支援教育の視点を取り入れることが重要だと考えます。

【例】授業の導入に活動の流れや到達目標を示しておくで見通しをもて集中できるようです。

ゆっくり、短い言葉で、具体的に話をすると、聞き取りやすくなるようです。

板書は、文字の大きさや行間、色分け等を工夫し、ポイントにメリハリをつけると、書き取りしやすいようです。その際、書く時間の確保も大事です。

さらに個々に応じた個別的な支援や配慮の工夫も様々です。より授業が楽しく、わかるように、先生方の相談窓口として、連携を深めていきたいと思えます。



校内の保護者の皆様からの御相談をお受けいたします。

御家庭での子育てのお悩みなどについて、一緒に考え解決していけるよう、コーディネーター等が御相談に対応しています。担任を通じてお電話や連絡帳にて、御連絡ください。